

2019 年度実施概要

学校名

只見町立只見小学校

採択活動名

単元開発部門 「海とつながる只見町」

取り組みの概要

本校では、研究主題を『ふるさと只見、そして日本の未来を拓くたくましい子どもの育成』，副主題を「海と様々なつながりの中で広げ深める学びを通して」とし、各学年のテーマに基づく学習計画を立案し、生活科や総合的な学習の時間を中心に教科横断的な学習を展開し、海洋教育を実践してきた。これは、「只見の自然と共生することが水循環を通して海を守ることにつながること」「八十里越（国道289号）の開通に伴い、日本海とひと・もの・文化の流通がより一層強くなること」を学び、将来の町の在り方を考え、自己実現や社会貢献のための実践力を育む取組である。

各学年のテーマを、1年「只見の自然を感じよう」、2年「只見の人や自然を感じよう」、3年「只見の森の四季」、4年「海とともにある只見の食文化」、5年「ユネスコエコパークのまち只見の水と海」、6年「只見町の将来を提案する～海とつながり、世界と結びつく～」とし、体験的・探究的な学習を進めてきた。そこで芽生えた疑問と、全校生で取り組む海を意識した3つの体験活動、「田子倉湖散策（モーターボートに乗って、田子倉湖の自然を体感する活動）」、「八十里を越えて海へ（国道289号工事の進捗状況を確認し、日本海を近くに感じるための活動）」、「ふるさと登山（只見の山を登り、自然のすばらしさを知る活動）」とを結び付け、さらなる授業の充実を図ってきた。また、これらの3つの体験活動を通して感じたことや新たな疑問を各学年の授業でさらに掘り下げ、発展的な学習につなげることができた。学習においては、体験活動の写真や疑問や気づきなどのつぶやきを学びの足跡として記録に残し、掲示することで、授業の導入に活用したり、他教科との関連を図る際に授業の中で振り返ったりすることができた。

このように、生活科および総合的な学習の時間での取組と学校行事における取組の大きく2本の柱で、海洋教育の視点を付加したESDの実践を行うことで、ふるさと只見のよさを再発見したり、地球規模の山と海との水の循環の中に自分たちが生きていることを実感したり、内陸部における海の恵みに気付いたりすることができた。



実施単元名 ※実施した単元の数に応じて記載してください

1. 3年 只見の森の四季「木の名前を調べよう」
2. 4年 海とともにある只見の食文化「只見の職の歴史を調べよう」
3. 5年 ユネスコエコパークのまち只見の水と海「只見の水について調べようⅡ」
4. 6年 只見町の将来を提案する～海とつながり、世界と結びつく～「町の抱える課題と未来展望Ⅱ」